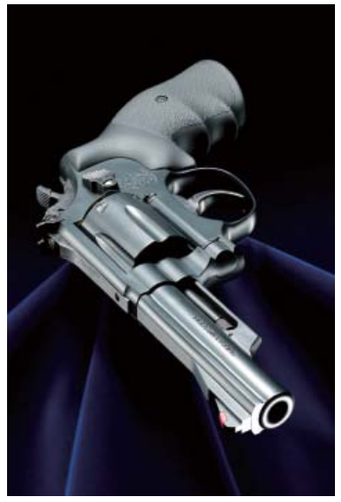
CONTENTS

COMBAT

2012.Oct.
No.439

10

Cover Design
favorite graphics(tamao ito),
Cover Photo
fujiwara[Dazzled Eye Designs]
©WORLD PHOTO PRESS 2012



014 【第1特集／トイガン】
TOKYO MARUI Smith&Wesson M19&M66 Siries
●Photos&Text by Taku

020 **WESTERN ARMS M16 ゴルゴ13 MODEL G13A3 SV Part2**
●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

038 **第22回 APSカップ 東京本大会**
●Photos&Text by Taku

【第2特集／ミリタリー】

004 **NEW GENERATION STYLER OPERATION SFOD-D PROFILE 4**
●by Fujiwara

058 **ヨーロッパ最大級の軍事見本市 EURO SATORY 2012 Part.2**
●リポート：清谷信一（Shinichi Kiyotani）

064 **BATES ZERO MASS**
●Photos&Text by Tomo Hasegawa

034 **にっぽんのちからこぶ**
月刊・自衛隊「自衛隊、北へ（第6師団）」
●取材／菊池雅之

048 GOODS & ACCESSORY

070 3R X FEWTURE
12インチ・フィギュア「ゴルゴ13」

072 セイコー　プロスペックス　「ゴルゴ13 コラボモデル」

074 ドイツ古典車ショーへようこそ！
●取材：大矢アキオ

076 Tuff Products タクレットシリーズ
タクレットの普段使いを極める！ 自分流カスタムを紹介
●by Yui Kamiya

082 **トイガンニュース**
082 WA ボブチャウ・スペシャル・バージョン1.5
〈ビンテージ・エディション〉
084 WA ベレッタM9
〈ハートロッカー／バトルバメージ・バージョン〉

085 **Militaria Roundup!**
ドイツ陸軍下士官兵用野戦服　Part.3
●解説：菊月俊之

096 サープラスいじり技術研究所
●写真・文：織本知之

130 **The Equipments of the U.S. Force**
［現用米軍装備カタログ］第95回
イーグル・インダストリー　Rhodesian Recon Ves
●解説：松原隆（高知ボンバーズ）／●撮影：山崎学

138 世界の兵士図鑑
現用フランス陸軍
●イラスト・解説：坂本 明

142 PRESENT

184 S&Grafグッズ

186 中田商店グッズ

097 GAME OVER THE TOP！
100 物欲ワンホール
Round 12：猛暑対策！_涼感↑UP↑アイテム
104 レア・ミリタリー・テクノロジー
108 ミリタリー雑学講座
112 ミリタリー・コレクション
114 幻妖中隊　#mod.14　●by FUJIWARA
116 包丁大全・手前味噌
118 A STITCH IN TIME
119 MGストーリー ～小峯隆生のできるまで～
122 蛙のゆびさき（中山 蛙）
124 トイガンズジャンクション
161 バックナンバーリスト
162 読んで覚える　TakuのHOW TO Shooting　射撃のススメ
164 帰ってきた 狩野健一郎の［監督、そこにおっぱいは必要ですか!?］
166 アメリカGUN事情　Guns Talk from US
168 環太平洋合同演習「RIMPAC」　●取材：菊池雅之
170 狩野健一郎のシネマ放浪記
171 狩野健一郎の新作DVD紹介
172 コンバットマガジン・インフォメーション・センター
175 読者プレゼント応募方法
176 編集後記

WESTERN ARMS
M16 ゴルゴ13 MODEL
G13A3 SV
Part2

ウエスタン アームズ ☎03-3407-5922　http://www.wa-gunnet.co.jp/
●Photos & Text by SHOTGUN MARCY
©さいとう・たかを／リイド社

7月27日、Yahoo! ニュースで本誌９月号の紹介が配信された!!　銃器専門誌初の快挙。“ゴルゴ13”というキャラクターが、以下に注目されているかが窺える出来事だった。

G13A3のモデルアップにあたって、WAの開発スタッフはリイド社から発行されている単行本を読み漁ったという。中でも、特に参考にしたものは149巻「激突！AK-100 VS M-16」のカバーに描かれたA2ベースのスナイパー・カスタムだったそうだ。

1968年の出来事

ウエスタン アームズ（以下：WA）が正式な版権契約に基づいて、リアルにモデルアップしたM16ゴルゴ13モデル“G13A3 SV（スーパー・バージョン）”が、いよいよ市場にデビューする。今回は、その最終プロト・タイプをリポートすることになった。WA社長の国本圭一さんによると

「ここから先、細部をさらにクオリティ・アップする作業が残っているそうだが、量産モデルとの違いはほとんど出ないだろう」

とのこと。つまり、皆さんが手にするG13A3は、今回紹介するモデルそのものと考えてよいということ。G13A3に限らず、基本がしっかりと確立されているWAの製品は、最終プロトと量産モデルの違いがほとんどないのがこれまでの状況。G13A3にも、それが当てはまるようだ。

1968年ビッグ・コミック誌で連載がはじまった『ゴルゴ13』は、来年2013年に連載45周年、単行本発売40周年をむかえる。同じ1968年の11月23日に、当時「拳銃殺陣師」として芸能界各方面で活躍していた国本圭一さんが、ガン・アクション全般を担当して製作された東宝映画『狙撃』（主演・加山雄三）が公開された。共に神ワザ的なテクニックを駆使する孤高のスナイパーを主人公にしたドラマ。その後、作者のさいとう・たかをさんは、世界的なファンを持つ劇画作家となり、国本さんは日本、アメリカの銃器界に多大な貢献を果たして現在のWAを創設した。まったく異なる分野を歩いてきた両者が、44年を経てコラボレーションした。そこに人知を超えた、何か運命的な繋がりを感じないではいられない。

遠距離から密かにターゲットを狙うスナイパーは、アクションが地味になりがちだ。その性格上、TVや映画のテーマになりにくい。少なくとも1968年当時はそんな感じだった。

しかし、今思い返すと『ゴルゴ13』が登場し、『狙撃』が公開された前後に、日本全国が空前のエア・ライフル（所持許可を必要とする、いわゆる実銃のエア・ライフル）ブームに沸いた記憶が蘇ってくる。東京では池袋と新宿に、一般の人も室内射撃を楽しめる「エア・ライフル射撃場」がオープン。レンタル・ライフルはシューティング・テーブルに鎖でしっかりと繋がれ、マズルを向ける方向に限度があったものの、土・日、休日には射撃ファンで結構にぎわっていた。ワルサーの精密射撃ライフル、アンシュッツの狙撃用ライフルなど、それまで聞いたことのない銃器の名前がファンの間で飛び交うようになったものその頃のことだ。

射撃場がいつまで存在していたのか、はっきりとした記憶はないが、新宿の

第22回

APSカップ 東京本大会

Photos＆Text by Taku

●主催:日本エアースポーツガン協会(http://www.airsportsgun.com/)

APSカップ史上初の200点満点優勝者誕生!!

APSカップが開催されるようになって20年ほどが経過した。トイガンを使用した精密射撃競技としてスタートしたAPSカップは、ブルズアイ、プレート、シルエットの3種目で構成される競技である（ライフルはブルズアイ、プレート、ムーバーの3種目）。それぞれの種目には、100、60、40と得点が配分されており、参加者は満点の200点を目指して競い合う。

トイガンの命中精度の限界を求められるシビアな競技である反面、初めて参加するビギナーであっても楽しめる手軽さを併せ持つ。まさにビギナーからベテランまで幅広い層が楽しめるシューティングマッチなのだ。

このマッチのコースをデザインしたのは、本誌でもライターとして活躍していたKENさん。KENさんは老若男女でも同じ土俵の上で競い合え、かつ20年先も飽きずに楽しめることが可能なシューティングマッチとしてAPSカップのコースをデザインした。

開催当初はトイガンの精度がマッチ内容に追いついていないところもあったため、もう少し難易度を下げるべきじゃないかという声もあったと聞く。しかし、マッチディレクターのKENさんは断固としてルールを変えなかった。数年後には必ずトイガンの精度が追いついてくると確信していたからである。事実1995年に発売された「APS-1グランドマスター」は、トイガン史上最高の命中精度を持つモデルとして、発売から15年以上経った現在でも後発のAPS-3と共にトップモデルとして君臨している。

いくら難易度の高い競技とはいえ、ガンの精度が追いつけば満点が出ても不思議ではないはずなのだが、残念ながらAPSカップがスタートしてから現在まで、公式記録が残る大会で出ていなかった。確かに難しい競技ではあるが、満点が出ないというワケではない。練習などでは目にする機会もあったし、実際ボク自身も出した経験はある。しかしそれはあくまでも練習であり本大会ではない。出そうで出ないというこの設定が絶妙で、やればやるほどよく判る。実はデザインしたKENさん自身も200点満点は出ないだろうと考えていたそうだ。考えた本人が出ないだろうと考えていたのだから、その難しさは想像を絶する。

ただ難しいだけならこの競技がこれだけ長続きすることはない。ゲーム性の高さやシンプルなルールなど、人を惹きつけてやまない魅力が確実にあるのがAPSカップなのだ。これは参加している選手の定着率から見ても判る。はじめは興味本位で参加してみたが、いつの間にかドップリとハマってしまう人は少なくない。現に、赤羽のホビーショップ・フロンティアのワタル社長は、興味本位で始めたところドップリとハ

今年も多くの子供が参加した。親子連れでの参加も多く、ライフル、ハンドガン双方ともに大人顔負けの戦いが繰り広げられていた。

自分の子供が撃つ姿を見守るアベ選手。自身も競技に参加しながらの参加は大変だと思うが、ライフル部門では見事優勝を果たした。

ワカサ選手の使用するライフルはストック部分がなんとレゴブロックで作られている。目立つだけでなく、実用性においても優れものだ。

競技終了後には、獲得した点数に応じてクラスバッジが申請できる。以前の点数を更新すれば、点数に応じたバッジが得られる。

今年からライフルも参加部門別の表彰となった。こちらはオープンサイト部門の入賞者による記念撮影。

今回のAPSカップはスポーツ振興くじ助成事業となり、公的なスポーツ大会として認められた。

今年のフリーサイト部門では入賞６名中３名が女性だった。老若男女でも成績にあまり影響が出ないことがよく判るだろう。

本年度のライフルクラス・グランドチャンピオンはミヤザキ・ヨシヒロ選手。APS-2ORをベースとしたカスタムライフルを使用している。

ヨーロッパ最大級の軍事見本市

EURO SATORY 2012 Part.2

●リポート：清谷信一（Shinichi Kiyotani）

ロシアの輸出用新型戦車“T-90MS”。T-90の派生型で都市戦闘を意識しているモデル。エンジンやトランスミッションは一新されている。また補助動力装置も追加され、主砲も新型の2A46Mに換装されている。さらに付加装甲も一新されている。今回は赤外線シグニチャーを極小化するマットを車体および砲塔に装備していた。

砲塔のハッチはトップアタックを意識して厚くなっている。RWS、UDP T05 BV-1 12.7㎜機銃を装備し、車長用のパノラミックサイトと統合されており、車長が操作することができる。

T-90の車体を流用した重防御火力支援戦闘車“BMPT”。戦車の車体の防御力を生かした火力支援用の装甲車だ。砲塔には30㎜機関砲２門、同軸7.62㎜機銃１門、対戦車ミサイル4発と高度な光学・電子サイトが装備されており、車体には30㎜グレネードランチャー2門が装備されている。ロシア陸軍での採用がキャンセルとなったために輸出に活路を見出そうとしているようだ。

前号に引き続き、世界最大の陸戦兵器見本市「ユーロサトリ」の模様をお伝えしよう。今回は主に装甲車輌を中心に紹介する。

今回は久々にロシアの戦車が登場した。T-90MSである。これは都市戦闘に特化したモデルで、レオパルド2PSO、あるいはA7＋に相当するモデルである。T-90はこれらのモデルと同じくRWS（リモート・ウェポン・ステーション）を装備している。異なるのは車長用のパノラミックサイトがRWSの光学・電子サイトを兼ねている事だ。またレオパルド2などの乗員は4名で、装填手が主としてRWSを操作するのに対し、T-90は自動装填装置を採用しているので砲手がおらず、乗員が3名だからだろう。ポーランドでも同様のソリューションを採用している。仮に将来我が国でも10式や90式の来近代化でRWSが搭載されることになれば（本来あれだけゲリコマ対処に使用するといっているのだからRWSは装備して然るべきだと筆者は思うのだが……）、T-90同様のソリューションが採用されることになるだろう。

それ以外に今回はいくつかの対RPG用新型装甲がお目見えした。これらはスラット（格子）・アーマーに代わるものだ。スラット・アーマーよりもより確実で、車幅の増加も少なく、軽量である。今後このような新型装甲が続々と開発されれば装甲車輌のありようは大きく変わっていくだろう。

チェコのエクスキャリバー・アームズが開発した装輪152㎜自走砲ダーナの近代化型“ダーナーM1CZ”。既存のダーナに近代化を施したものだ。エンジン、火器管制装置を採用している。

運転席のフロントウインドウは広い防弾ガラスが採用され視界が大幅に向上している。

イベコが開発したブラジル陸軍向けの6輪装甲車“VBTP”のAPC型。水陸両用型で戦闘重量は18.3t。最大20t程度までの増加が見込まれている。乗員は3名＋下車歩兵8名。ブラジル軍は各種バリエーションを含めて2,044輌を調達する予定で、イベコのブラジル工場で毎年100輌のペースで現地生産が行なわれる。

搭載されるのは同社が開発したOTO-HORUS。砲塔側面、左右4セットのチューブから発射される。電動プロペラで推進し、光学・電子センサーを搭載している。OTO-HORUSは120㎜滑腔砲からも発射できる。

オーメララ社はセンタウロベースの8×8装甲車フレッチアの砲塔にUAVを搭載したモデル“センタウロVBMセスプローラー”を発表。UAV搭載によって歩兵戦闘車のISR能力が大幅に向上する。

センタウロVBM回収車。センタウロVBMシリーズ用に開発された回収車で、9tの能力があるクレーンを装備し、砲塔やパワーパックの換装などが可能。仏タレス社傘下のTDA社の車載型120㎜迫撃砲“2R2M”を搭載している。

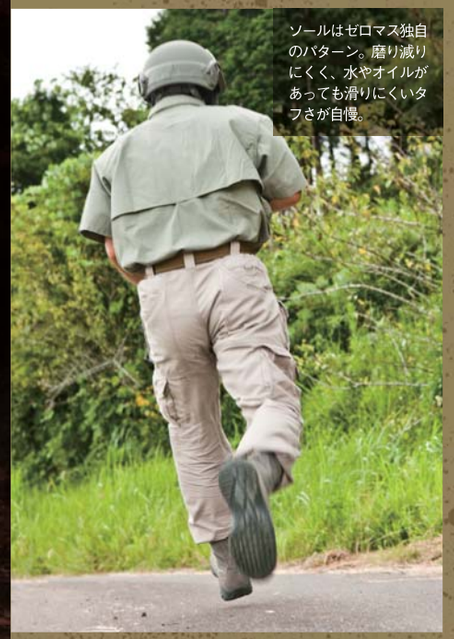
BATES
ZERO MASS

“タフ”で“快適”……そして、新たに“軽量”さという新たな魅力が加わった!
タクティカルシューズ界をリードするベイツ社の2012年最新モデル
それが“ゼロマス”だ!!

● Photos & Text by Tomo Hasegawa

問い合わせ先／中田商店 ☎ 03-3839-6866
HP URL：http://www.nakatashoten.com/

「タフで快適な履き心地」というベイツブーツの特徴に加え、“軽量”さという新たな快適さを実現。好評のウルヴァリンレザーに、薄いが強靭な1000デニールナイロンの組み合わせ。足首部分に設けられたパーツが足首をサポート。



ソールはゼロマス独自のパターン。磨り減りにくく、水やオイルがあっても滑りにくいタフさが自慢。

光が透けるほど薄い素材。これが軽さの秘密。1000デニールナイロンは耐久性に優れた素材として、タクティカルベストやバッグなどに多く使用されテイル素材。通気性のよい素材で快適に履き続けられるそうだ。

「タフで快適な履き心地」というベイツブーツの特徴に加え、“軽量”さという新たな快適さを実現。好評のウルヴァリンレザーに、薄いが強靭な1000デニールナイロンの組み合わせ。足首部分に設けられたパーツが足首をサポート。

タクティカルブーツの新機能、それは“軽量”であること！

『レザー製アッパーにナイロンの組み合わせが昔のジャングルブーツを彷彿とさせる』

これがベイツ社の新製品“ゼロマス”を見た時の感想だ。ゴツゴツした感触で重い、履いてると脚の彼方此方にマメができて痛くなったことを懐かしく思い出してしまう。

《タフさというモノは、辛いことに我慢した果てに手に入れられるモノなのか？》

な～んて思ってしまうほど。我慢に我慢を重ねて履いてみたが、辛さはなくならない。そのトラウマが思わず甦ってしまう。

辛さに耐えられず、履きやすいスポーツシューズを選んだ方がよっぽどマシ。そう考えて長いことミリタリーブーツを諦めてしまっていた……。それもベイツブーツが登場するまでのことだったが。

“柔軟”で“快適”であること。

ベイツ社の製品が目指したのは、頑強さだけでなく快適であること。快適だから体力が温存できより長く、強く闘える。新たなコンセプトによりミリタリーブーツからタクティカルブーツへ、進化を感じさせた。

●理想的な歩行パターンをもたらす“ICS”!

●歩くだけで呼吸するシステム“C3”

新機能で“快適”さを追求。タクティカルブーツだけでなく、タクティカル装備全般へ影響を与えるような新製品を開発。タクティカルブーツ製品をリードしてきた。それなのに、従来のミリタリーブーツを彷彿させる新製品。ナゼだろう？ 理由があるはずだ……。

ゼロマスを手に取った瞬間、それまでの疑問が吹き飛んだ。“軽い！”のだ。